

ありえない体感に感動し、あふれる感動を体感する

タイケンキカク くまの体験企画

尾鷲市

- 代表者名: 内山裕紀子 ●〒519-3612 尾鷲市林町9-28 ●設立: 2008年2月
- 従業員数: 男8人・女6人 計14人 ●TEL.090-7865-0771 ●FAX.0597-22-0471
- http://kumanokodo.info



内山裕紀子代表

事業の概要

「くまの体験企画」は、少人数の個人旅行者向けに着地型のエコツアーを企画し提供する個人経営の事業所である。着地型とは、目的地に所在する地元の業者が観光客を対象に現地集合・現地解散のサービスを行うことをいう。地元のことをよく知る案内人だからこそ、体験や交流に魅力が増すのである。宿泊や輸送を伴わないことから、旅行会社としての登録は不要であり誰でも開業ができる。

ターゲットとする客層は、主に30代前半の関東地方の女性である。彼女たちは、3~4日間かけて熊野古道を中心に旅をする。しかし、熊野古道と一口に言っても世界遺産の登録距離だけで300Kmを超え、その範囲は紀伊半島全域にわたる。広大な見どころのどこを歩けばいいのかが解らず、ポイントだけを訪ねる魅力に欠けた観光で終わってしまうことも多いという。このような状況を踏まえ、短時間ではあるが熊野地域の魅力を楽しんでもらえるようにと、15の熊野古道と吉野熊野国立公園などのコースを用意している。自分の体力や宿泊先に合わせたコース選択ができ、個人の好みに合わせた選択のしやすさを前面に出した企画であることから人気を得ている。

旅行コースが三重県から和歌山県に及ぶときは、他県の登録ガイドにつなぐ配慮がきめ細かい。このようなサービスを利用者が高く評価し、そのことからリピーターも多いという。

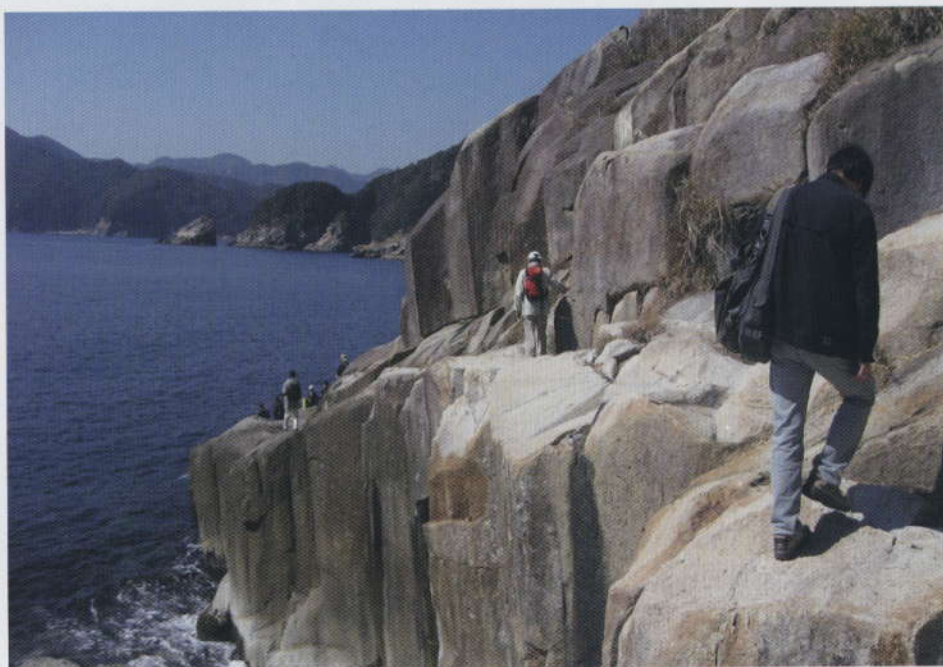
解決したかった課題、事業化の動機など

2002年、名古屋市からUターンした内山裕紀子さん(現・代表)は、健康づくりを兼ねて自宅近くにある熊野古道のひとつ「馬越峠」を歩き始めた。当時は、道の案内表示もなく、すれ違う人に道を尋ねられることが多かった。地元出身の強みを活かして案内することが次第に増え、お礼を言われ

ると楽しくもあった。しかし地元住民からは、「熊野古道を訪れる客は、山道だけ歩いて帰ってしまう」「街なかに入ってもぞろぞろ歩くだけ」という声があった。一方で観光客からは、「熊野古道は市町や峠別で案内情報がまちまち」「個人客向けの観光案内事業所が少なく熊野へ行きにくい」という声があった。双方の意見や課題をなんとかしたいと思っていた内山さんは、着地型のエコツアーを提供することで解決できるのではないかと考えた。

その頃尾鷲市では、熊野古道世界遺産登録に向けてハード面ソフト面の準備が始まっていた。ボランティアガイドや熊野古道の語り部になったのをきっかけに、まちづくり関係やイベント実行委員など16事業に参加した。内山さんは、案内した観光客の代弁者として意見や要望を行政や地元関係者に伝え続けた。

「愛する紀州で自分の経験を活かしたい」そして「やるからには従来のボランティアガイドの枠を超えたい」という気持ちは、若者が仕事として熊野古道に関わり、副業として収入が得られるようなガイド業を定着させたいという強い思いに変わっていった。2008年、開業に踏み切った。



元盛松・船着場への道

ビジネスモデル

初心者向けお勧めコースの「初めての熊野古道」は、2名参加の場合、一人あたり6,500～8,500円である。参加者の希望に合わせてコーディネートするオーダーメイドの「あなただけの熊野古道」は、2名参加の場合、一人あたり半日コース5,800円から、1日コース8,800円からで、いずれのコースも3名以上だと1,000～2,000円安くなる。他に天狗倉山や秘境コースなど難易度が少し高くなるものもあるが、案内先は見事な景観である。健脚の持ち主には、団体の観光では味わうことができない感動するコースであること間違いなしである。

くまの体験企画の収入は、これら個人客のエコツアー参加料金、団体ツアーの企画料や下見同行料、現地ガイドの派遣手数料、地元住民向けイベントの参加料金で、必要経費はガイド派遣費、保険料、参加記念品などである。

内山さん自身がガイドを行うことはもちろん、11名の登録ガイドと2名のサポートスタッフの中から適切な人選を行い依頼する。彼らは副業としてガイドを行っており、集合場所で待つ客のもとへ派遣されることになる。県別のガイドは、三重県7名、和歌山県6名が登録している。

現地ガイドのような事業であるが、コーディネートと体験型ツアー形態のため、「ガイドの会」のようなものではなく、他団体との活動内容の重複は少ない。また、地元住民向けに地域発見ツアー「紀伊半島みる観る探検隊」をシリーズイベントとして企画実施している。例えば、尾鷲市三木浦町で実施した「元盛松（もとさがりまつ）の集落跡を訪ねて」という企画では、昭和初期に全戸移住した集落跡を訪ね、どうして全移転を余儀なくされたかを探るという内容であった。往時の様子をよく知る現地案内人の話に、参加者の反響は大きく人気ツアーとなった。これをきっかけに多くのメディアが取り上げ、尾鷲市のウォーキングコースになるなど波及効果が生まれている。

事業のアピールポイント

「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録以来、大手の旅行会社による団体バスツアー客が大勢訪れているが、これらの主な客層は「山歩き」「健康ウォーキング」を趣味とする人たちが中心

で年齢は高めである。バスツアーに参加しない若者や個人客に「完全貸し切り、毎日催行、直前の申し込み可、オリジナルツアー」を提供することで、満足度と利便性を向上し、思い出に残る有意義な旅になるよう実施している。

「まちなか」を含めたコース設定、小さな商店への経済効果、地域資源の発掘やPRなど地域を巻き込んだツアーは、少人数だからこそできる企画である。観光客と地域住民がお互いの刺激になるような出会いの場を提供している。また、安売りにならない適正な価格で販売することで、地産地消の弁当、住民手作りの参加記念品などを組み込むことができ、ガイドのやる気や責任感も増すのである。

このように観光、地域、経済などバランスの取れた観光のあり方であるエコツーリズムを推進し、「持続可能な観光」が定着するよう事業を展開している。



エコツアー初めての熊野古道・馬越峠



元盛松・ゴロタ浜

今後の展望

内山さんのガイドは、一般的な観光スポットの説明ではなく解説や啓発活動である「インタープリテーション」という技法を用いている。例えば、熊野古道沿いに地蔵があればその説明で終わらず、それを通して古(いにしえ)の旅人の思いや苦勞などを客自身が気付く体感する、その手助けをしているだけという。熊野の歴史、大自然の魅力、地域の暮らしなど「語らないものと客との間に立ち続けたい」と願っている。

旅行者にとって、旅先の行政区分は重要なことではない。三重県の熊野古道や吉野熊野国立公園と和歌山県の熊野三山(熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社)や中辺路(なかへち)など全域を網羅できるよう広域連携とガイドの育成を図り、「熊野はひとつ」を基本に旅の質を高め感動を提供していきたいとしている。